

イングリッシュキャンプ

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

外国語を用いた体験活動を通して、異文化・言語に体験的にふれあい、外国語について学ぶ意欲を高めるとともに、外国人とコミュニケーションを図る素養を高める。

(外国人講師の活用による、質の高い外国語のコミュニケーション SDGs 対応目標4)

○ 実施期間

令和7年2月15日(土)～2月16日(日) 1泊2日

○ 対象者・参加者数

小学4～6年生(募集定員20名)

参加者26名 ※応募者多数のため定員を増員

○ 活動プログラム

	2月15日		2月16日
9:30	高知方面送迎バス出発(はりまや橋観光BT)	6:00	起床
10:00	徳島方面送迎バス出発(道の駅日和佐)	7:30	朝のつどい
12:00	自然の家到着	7:45	朝食
12:15	昼食	9:00	ミッションゲーム
13:00	開講式・入所オリエンテーション	10:40	工作活動・質問タイム
14:00	英語で自己紹介・パスポート作り	12:00	昼食
15:00	イングリッシュフィールドフォトビンゴ	13:00	閉講式
17:00	夕べのつどい	13:30	自然の家発
17:15	夕食・自由時間	15:30	徳島方面送迎バス到着 (道の駅日和佐)
18:30	キャンドルファイア	16:00	高知方面送迎バス到着 (はりまや橋観光BT)
20:00	入浴		
22:00	就寝		

2. 活動の様子

国際交流専門員1名と外国指導助手4名の計5名の講師をお招きし、各班に1名の外国語指導助手を配置して各活動を行った。

<1日目>

初日は、まず「英語で自己紹介・パスポート作り」を実施した。パスポート作りは、子どもと外国語指導助手にそれぞれ各国のスタンプをもたせ、会話をするとスタンプがもらえる活動である。この活動を行うことで、子ども同士、また子どもと外国語指導助手との会話が増えるきっかけとなった。休み時間も意欲的に外国語指導助手に関わる子どもの様子が見られた。

次に、「イングリッシュフィールドフォトビンゴ」を実施した。地図を頼りに、問題の7か所の写真が撮影されたポイントを見つけ、クイズに回答する活動である。全てのクイズは外国語の3択クイズで、班に帯同する外国語指導助手に外国語で質問することでヒントが得られる仕様とした。自然豊かな所内を散策しながら行う活動であるため、参加者の緊張もほぐれ、のびのびと活動する様子が見られた。

夜間には、「キャンドルファイア」を実施した。それぞれの講師に、1つずつ外国語を用いたレクリエーション活動を提供していただいた。キャンドルを囲みながら、ゲームや歌、ダンスに興じることで、外国語に親しむ姿が見られた。



<2日目>

2日目は、初めに「ミッションゲーム」を行った。地図に示されたポイントを訪れ、各ポイントで指示されたミッションをクリアしていく活動である。外国語でのコミュニケーションを求めるミッションに加え、長縄やフラフープを用いた身体を使うミッションも取り入れた。初日に実施した「イングリッシュフィールドフォトビンゴ」より難易度を下げたことで、全グループが全てのミッションをクリアし、喜び合う姿が見られた。

最後に、「流木クラフト」を行った。室戸岬に流れ着いた流木を紙やすりで磨き、キーホルダーを作る本所の研修支援プログラムである。外国語の説明の後、各々が制作に取り組む一方で、外国語指導助手とのコミュニケーションを楽しむこともねらい、実施した。どこからやってきたのか分からない流木を磨きつつ、遠く離れた外国にも思いを馳せながら、世界に一つのキーホルダーを作ることができた。

その他、食事と同じ班のメンバーでとったり、空いた時間には身体を動かしたりして遊んだりしたことで、参加者同士、また参加者と講師との仲も深まり、充実した1泊2日となった。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ 行く前は「英語をちゃんと話せるかな…」「友達できるかな…」ととても不安な気持ちでいっぱいだったけど、実際にみんなとキャンプをしてみて、いろいろな子と友達になったり、少しだけ英語の単語や文を覚えられたりして、とても楽しい時間を過ごせました。この経験を活かして、将来の役に立てたいです。
- ・ とても楽しかったです。もっと英語を学んで、読み書きができるようになりたいです。新しい友達も何人もできて嬉しかったです。また参加したいです。
- ・ 前よりも英語がものすごく気軽に使えるなと思えるようになった。友達と一緒に英語を読んで

解く問題が楽しかった。

- ・ 外国の人と言葉だけで通じるのではなく、表情も使いながら接するといいとわかった。みんな優しくよかった。来年もやりたいです。

○ 事業の成果

- ・ 事業の事前及び事後に行った「令和6年度国際交流事業参加者アンケート」によると、全ての問いにおいて、肯定的回答（1：とても思う、2：少し思う）の割合が、事前より事後の方が高くなった（ただし、2日目は不参加となった参加者の回答《未回答》は考慮していない。）。
- ・ 8つの問いのうち、5つの問いにおいて、肯定的回答の割合が100%となった。
- ・ 以上のアンケート結果から、本事業は参加者のグローバル人材を志向することに寄与することができたと考える。
- ・ 本所のアンケートにおいても、参加者の満足度は100%であった。
- ・ 記述式アンケートによると、本事業で開発した「イングリッシュフィールドフォトビンゴ」が最も楽しかったという声が多かった。難易度が参加者の実態に即していたものとする。

○ 事業の課題

- ・ 1班あたり6～7人の参加者及び1名の講師で事業を展開したが、ある講師からは1班あたりの人数が多いのではないかと指摘があった。当該講師の班に個別に支援を要する参加者がいた影響が大きかったようである。今後は、事前のアンケート調査で参加者の実態把握を丁寧に行って班編成を行ったり、班の構成人数を5～6人に留めたりする等の対応を検討するとよい。
- ・ 講師との振り返りの際に、「イングリッシュフィールドフォトビンゴ」は、「ビンゴ」の要素を省いた方が参加者にとってルールを理解しやすくなるのではないかと指摘があった。本所で提供しているプログラム「フィールドフォトビンゴ」をアレンジした活動であったためビンゴの要素を取り入れたが、外国語に親しませることを目的とするプログラムを提供するのであれば「ビンゴ」の要素を省くことも一考の余地がある。
- ・ ミッションラリーは、やや難易度が易しいという感想が多く寄せられた。その分達成感を味わうことができた参加者がいた一方で、物足りなさを感じた参加者も複数いた。今後今回同様小学校4～6年生を対象にミッションラリーを行う際には、ミッションの難易度を上げる必要があると考える。もしくは、ミッションの難易度を複数用意することで幅広い年齢層に対応するプログラムにすることができると考える。